



China Indicators

定例経済指標レポート

中国 貿易統計 (2009年5月)

～前年比減少率が拡大したが、前月比では増勢を保った～

発表日：2009年6月11日 (木)

第一生命経済研究所 経済調査部

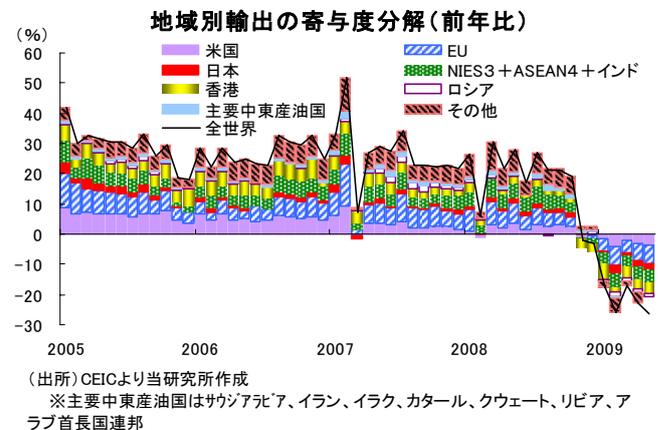
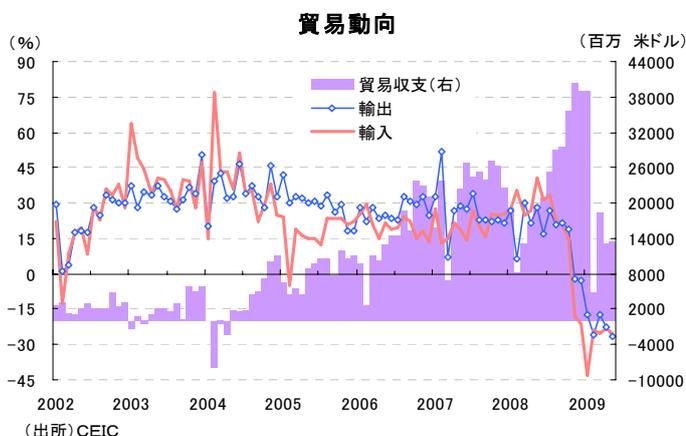
担当 エコノミスト 董 氷 (とう ひょう、03-5221-4527)

5月の貿易黒字は133.9億ドルと4月(131.4億ドル)からほぼ横ばいで推移している。黒字は維持したものの、前年比では▲32.4%と4月(同▲19.7%)から減少率が拡大した。

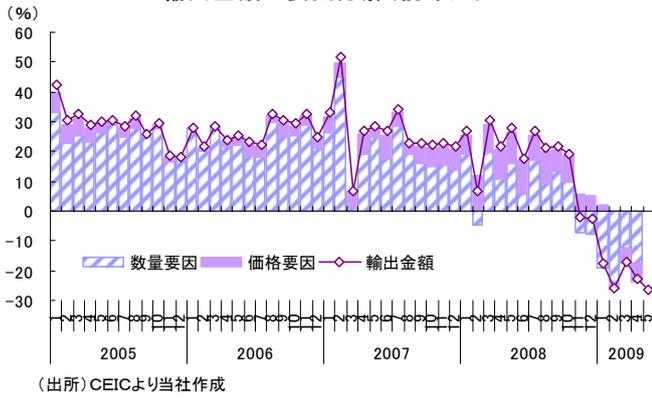
5月の輸出は887.6億ドル、前年比▲26.4%と4月(同▲22.6%)から減少率が拡大したが、前月比(季調済)では+0.2%と増勢を保っている。これは昨年の5月に加速したベース効果(ゴールデンウィークの廃止により、平日が多かった影響で大幅に押し上げられた)が背景にあると思われる。地域別にみると、米国向けが前年比▲21.2%(4月同▲17.7%)となったほか、EU向けは同▲29.2%(4月同▲27.6%)、日本向けは同▲26.0%(4月同▲23.5%)とそれぞれ減少率が拡大した。また、税関によると、季節調整後の輸出は前年比▲22.8%となった。

輸出を取り巻く環境をみると、輸出に先行するPMI輸出向け新規受注指数は大幅に改善している。世界的に在庫調整が進展していることに加え、米国のISM製造業景況指数など海外の景況感も改善し始めていることから、先行きの輸出は緩やかに持ち直すと予想するものの、世界の需要が緩やかな回復に留まる中、急速な回復は難しいとみられる。

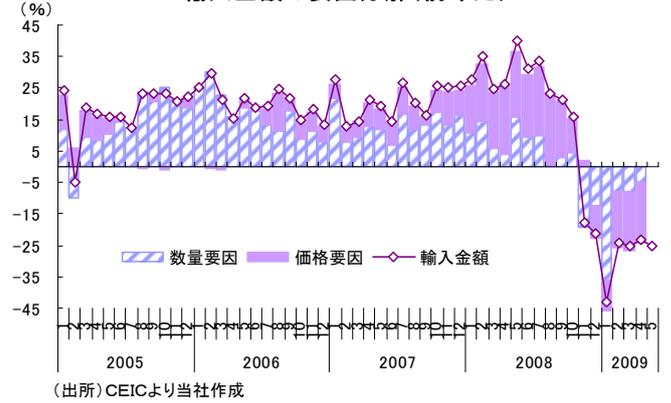
一方、5月の輸入は753.7億ドル、前年比▲25.2%と4月(▲23.0%)から減少率が拡大したが、前月比(季調済)は+4.4%と4月(同+15.1%)に続き増勢が続いた。これまでの国内の景気対策の効果と、加工貿易の好調により、輸入は底打ちの可能性が高まっている。足元の輸入金額の減少は、数量要因よりも原油をはじめとする輸入価格の大幅低下による価格要因の方が大きい。先行きについては、国内の景気対策や在庫調整により、輸入の減少幅が縮小する見通しである。



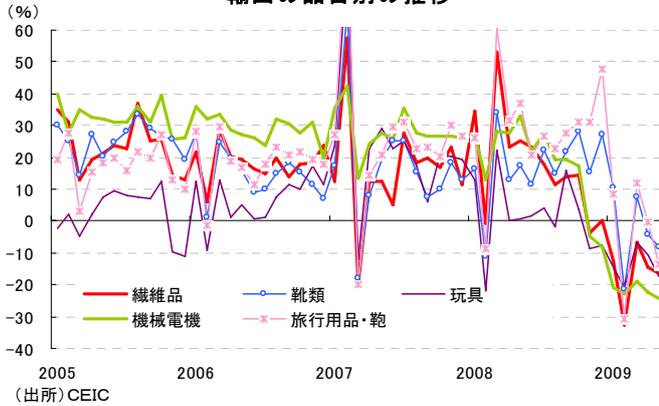
輸出金額の要因分解(前年比)



輸入金額の要因分解(前年比)



輸出の品目別の推移



輸出の推移(前年比、人民元建て)

